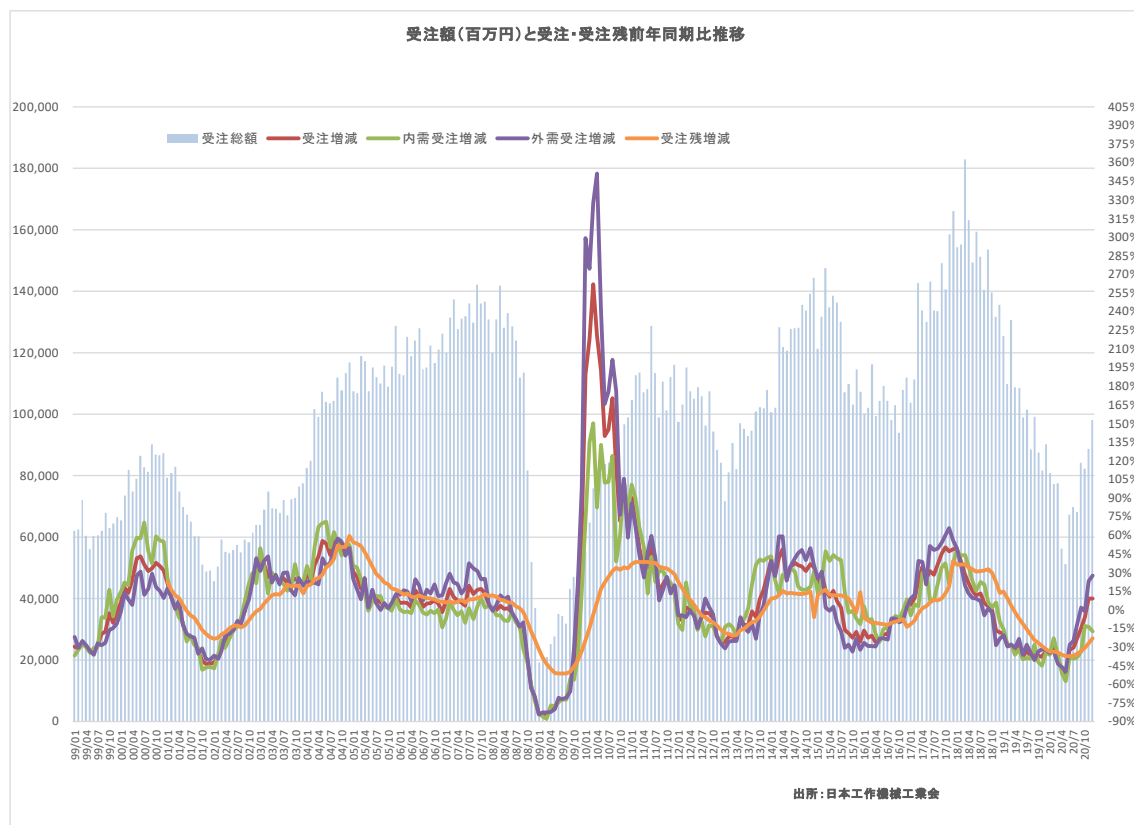


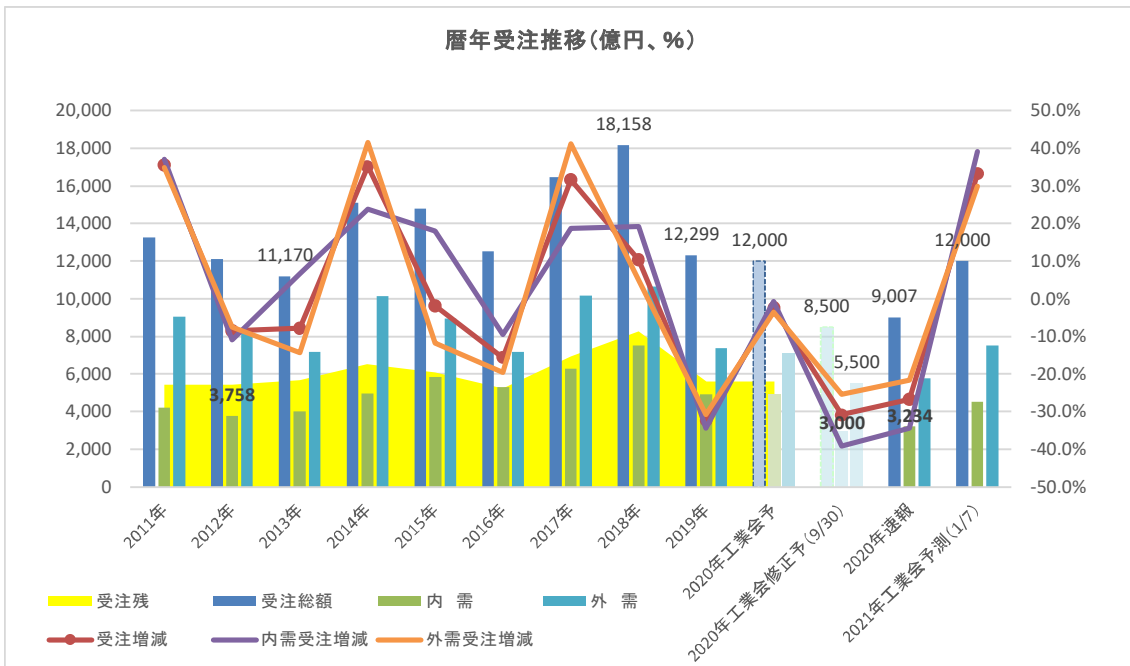
工作機械工業会 12月受注速報 12月は8.7%増と2ヶ月連続で同月比プラスに

12月受注は8.7%増 980億円と2ヶ月連続で同月比増、2020年暦年は26.8%減 9007億円

1/13の15時に日本工作機械工業会の12月受注速報が開示された。12月受注は前年同月比8.7%増の980億円と、2ヶ月連続で前年同月比プラスとなったが、好不況を分ける1000億円には届かなかった。また2020年暦年では前年比26.8%減の9007億円となった。

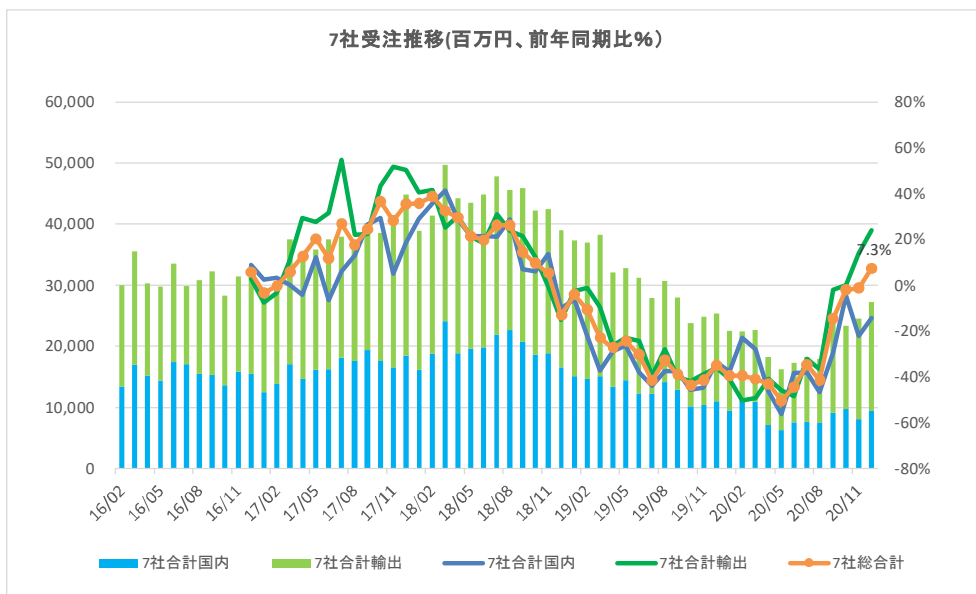


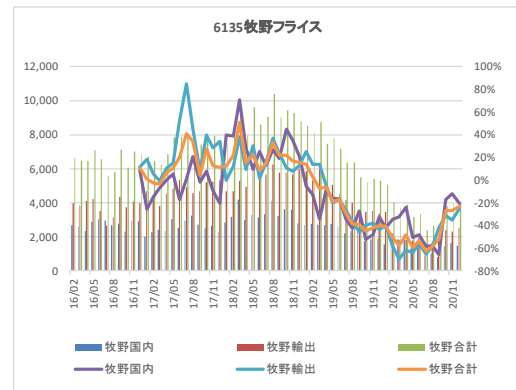
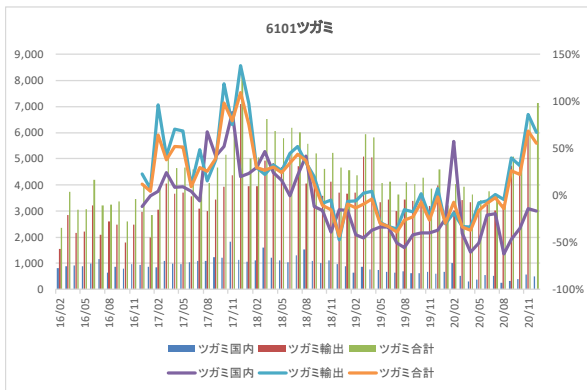
内訳は内需が307.6億円(17.5%減)で25ヶ月連続減、前月比では13.8%増と何とか9月以来の300億円超えに。一方外需は672億円(27.3%増)で、前月比も9.0%増と、引き続き中国増が寄与していると思われる。また2020年暦年では9007億円(26.8%減)、内需3234億円(34.4%減)、外需5774億円(21.6%減)となり、工業会が9/30に減額した年間予想8500億円(内需3000億円、外需5500億円)に対して507億円(内需が234億円、外需274億円)上回って着地した。国内は第4次モノづくり補助金、サプライチェーン対策の国内投資促進事業費などで追加措置、外需は中国の好調に加え、グローバルにトヨタが過去最高の販売で設備投資を500億円増額、あとは内外での半導体、電子部品製造、5Gに関わる業界向けなどが寄与している模様。但し、昨今の欧米、日本でのコロナ再拡大などの影響が改めて顕在化する懸念もあり、中国一本足打法では全体の底上げは本格的な回復は難しく、コロナ収束を前提に、2021年は2020年の期初に工業会が予測した2021年受注予測の1兆2000億円への回帰に止まるとみられる。



主要7社の12月受注は1.3%減の245億円と24ヶ月連続減少とプラスにならず

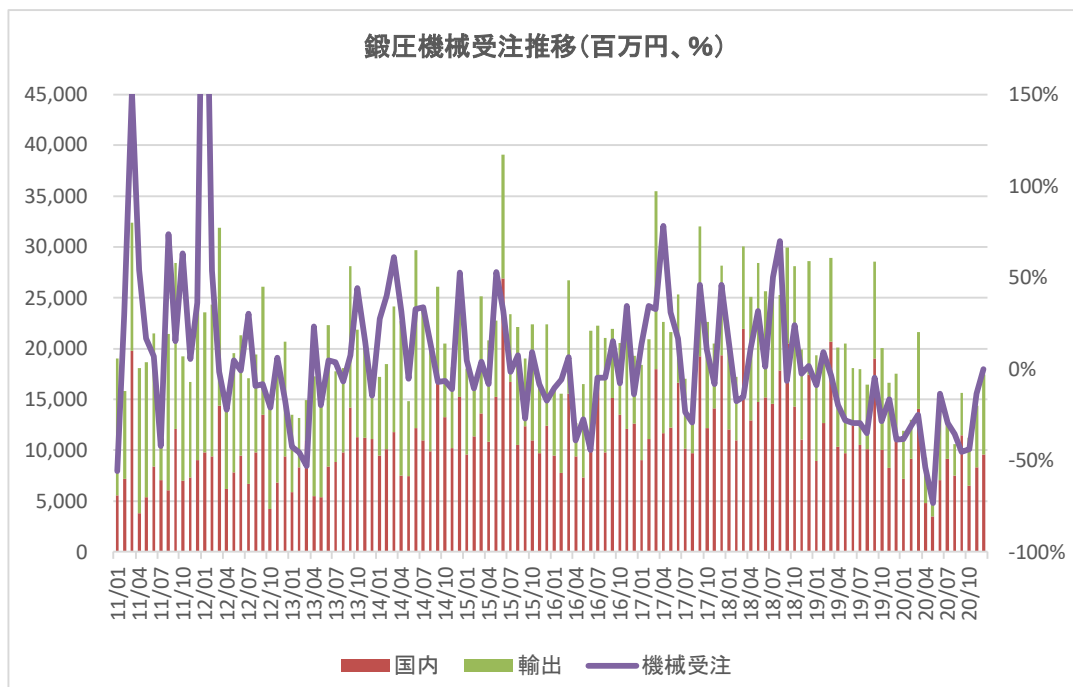
日刊工業新聞がまとめる主要工作機械7社の11月受注実績(1/14発表)は272億円となり、25ヶ月ぶりにプラスとなった。個別で見ると差があり、中国主力のツガミが71.30億円(55.8%増)、に対し、航空機などに強い牧野フライス製作所が40.40億円(23.3%減)など、その他でもジェイテクト18.9%減、三菱重工22.8%減など、まだ3社が同月比マイナスと跛行色がある。暦年での7社合計は2545億円(31.1%減)、国内1040億円(33.2%減)、輸出1504億円(29.6%減)と、工業会の数字を下回る伸び率に止まっている。なお、個別では暦年で前年比横ばいとなったのがツガミで、530億円(0.6%減)、同社は国内が29.1%減も輸出が4.7%増となった。同社以外は牧野47.9%減、オークマ30.1%減、OKK37.2%減など、いずれも3割超の減少となっている。





金属加工機械として鍛圧機械受注は低迷、12月受注は前年同月比0.1%減の174.9億円

工作機械と同じ金属加工機械として、鍛圧機械の受注は低迷が続いている。1/13 に発表された日本鍛圧機械工業会の12月鍛圧機械受注は、機械全体で前年同月比0.1%減の174.91億円と22ヶ月連続減、国内向けが11月は21ヶ月ぶりに前年同月比プラスに転じたものの12月は95.78億円(16.5%減)と再度マイナスに。電機が28.4%減、自動車が17.8%減の一方で、一般機械27.3%増などは跛行色がある。輸出は79.13億円(31.2%増)と6月以来のプラスに。内訳は台湾・韓国向けが34%増、中国が41.7%増、インド3倍増、北米も2.4倍ながら、欧州は34.1%減に。機種別内訳はプレス機械が99.55億円(11.6%増)、板金機械が75.36億円(12.3%減)。



鍛圧機械の2020年暦年受注額は1589億円（34.6%減）となり、工作機械以上の厳しさとなっている。国内が982億円（31.9%減）、輸出が607億円（38.5%減）と内外ともに厳しい数字に。なお工業会では昨年12月16日に2021年予測を出しているが、それによるとコロナ収束を前提に、全体で1790億円（12.6%増）、内訳は国内1075億円（9.5%増）、輸出715億円（17.8%増）予想となっている。工作機械と異なり、この予想でも2019年水準の74%水準にしかならず、工作機械以上に緩やかな回復に止まる予想となっている。機種別ではプレス系が920億円（9.0%増）。板金系870億円（16.8%増）予想。プレス系はEV、デジタル化向け拡大も大型設備投資の見送りを懸念、板金系は半導体製造、社会インフラ、医療関連などの拡大を見込む。輸出は中国が自動車産業の大型設備投資に期待がかかる。なお、改めてコロナ感染拡大で大型投資見送り懸念があり、予断を許さない状況が続こう。

